

過去から現在、そして未来へつなぐ 防災・減災の貴重な声

ー自然災害伝承碑が伝える先人たちのメッセージー

応用地理部地理情報処理課
小野 康

過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。

自然災害の発生年月日、災害種別や範囲、被害内容や規模が記載されたもの。



昭和三陸地震
(岩手県陸前高田市)



昭和13年洪水
(茨城県水戸市)



北但大震災
(兵庫県豊岡市)



平成3年雲仙岳噴火
(長崎県島原市)



津波(1960年5月24日)
(沖縄県名護市)

自然災害伝承碑は、当時の被災状況を伝えると同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待される。

洪水等の自然災害は同じ場所が
繰り返し被害に遭いやすい性質がある。

国土地理院が自然災害伝承碑の情報整備
を行うことにより、過去に被害を受けた
場所と災害の種別が地図上でわかる。



その土地の災害に
対する危険性を
知るきっかけに!!

「平成30年7月豪雨」

- ◆ 広島県坂町では、過去の大水害の被災状況を伝える石碑が現地に建立されていたものの地域住民にその内容が十分に伝承されていなかった。



【水害碑（広島県坂町）の伝承内容】

明治40年（1907）7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

自然災害伝承碑の公開（地理院地図）

地理院地図 (電子国土Web) 例: 鵜岳 / 金沢市木ノ新保町 / 35度0分0秒 135度0分0秒 / 35.00 135.00 / 54SUE83694920

初期表示 印刷 共有 設定 ツール? ヘルプ

地図の種類

- 標準地図
- 透視地図
- 白地図
- English
- 写真

地図の種類

トップ > 災害伝承・避難場所 > 自然災害伝承碑

- 自然災害伝承碑（すべて）
- 自然災害伝承碑（洪水）
- 自然災害伝承碑（土砂災害）
- 自然災害伝承碑（高潮）
- 自然災害伝承碑（地震）
- 自然災害伝承碑（津波）
- 自然災害伝承碑（火山災害）
- 自然災害伝承碑（その他）

選択中の地図

自然災害伝承碑（すべて） 透過率 100%

標準地図 グレースケール 透過率 100%

リセット

標高: 251.1m (データソース: DEM5B)

水害碑

概要

碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、 数日來降り続いた豪雨により 天地川や総調川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集

ID:34309-002

水害碑

災害名: 洪水・土石流
(1907年7月15日)

詳細説明は画像をクリック

令和元年6月から地理院地図で公開

※アイコンを大きく表示しています。

<公開している情報>

①碑名

②災害名

③災害種別

（洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山災害、その他）

④建立年

⑤所在地

⑥伝承内容

（碑文内容等を100字程度に要約した情報）

⑦写真

水害碑

×

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集

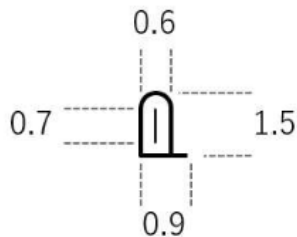
ID:34309-002

- ・ 新たな地図記号「自然災害伝承碑」は、平成31年3月に制定に関して報道発表、令和元年9月に刊行された2万5千分1地形図に初めて掲載
- ・ 地図記号「自然災害伝承碑」は、記念碑の記号に碑文を表す縦線を加えた形
- ・ 従来の記念碑記号より若干大きいサイズ（縦・横・線幅→約1.5倍）

「自然災害伝承碑」地図記号

自然災害伝承碑の例

関東大震災関連



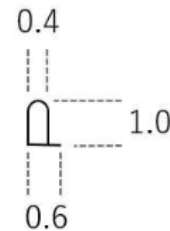
(外形) 線幅: 0.15 mm
(中線) 線幅: 0.08 mm



(工部大学校址碑: 東京都千代田区)

(参考) 「記念碑」地図記号

記念碑の例

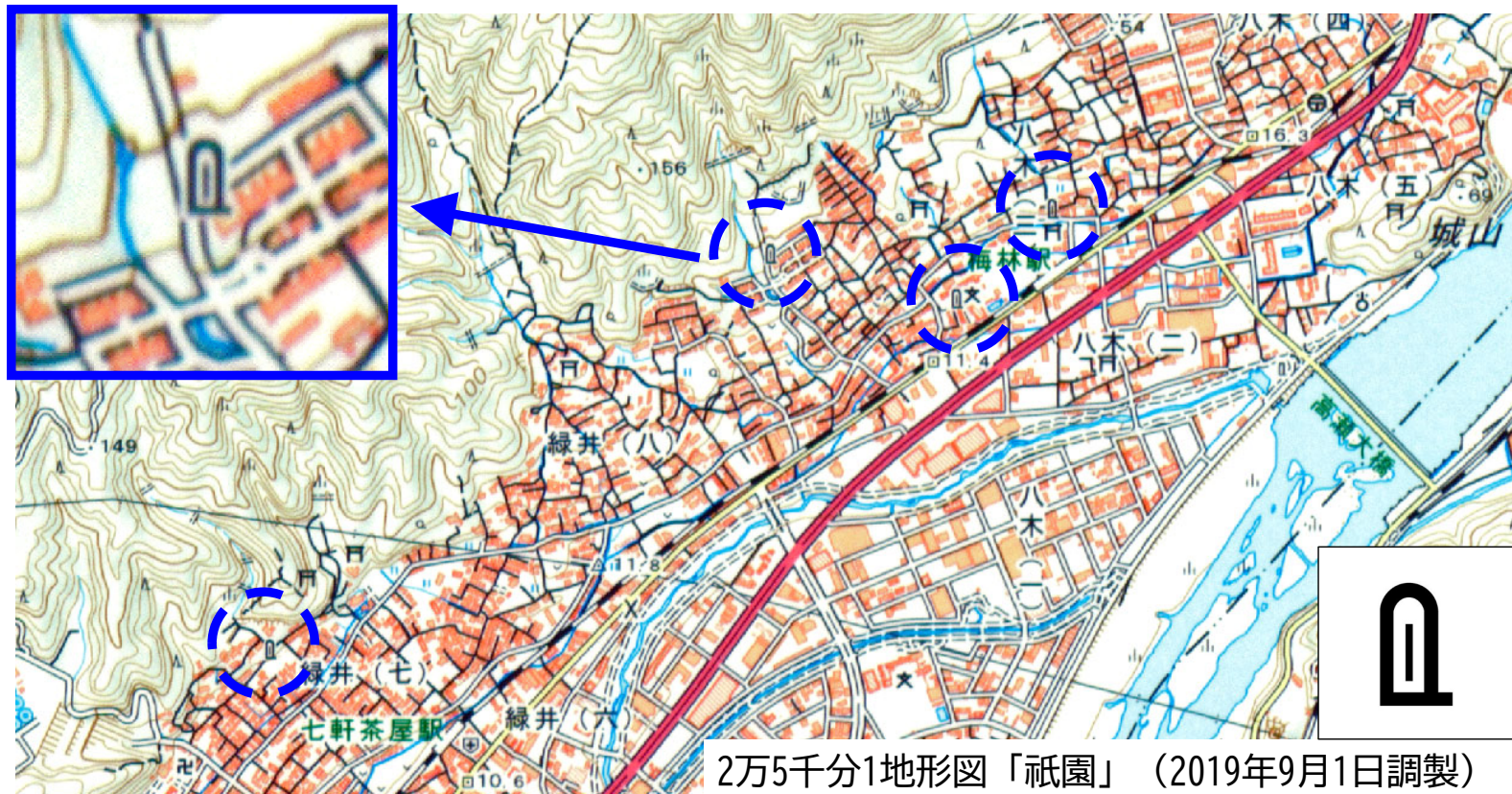


線幅: 0.1 mm



(忠犬ハチ公像: 東京都渋谷区)

自然災害伝承碑の公開 (2万5千分1地形図)



令和元年9月刊行から2万5千分1地形図に掲載



「松崎の碑」 島根県益田市

現在地理院地図に掲載されている中で
一番古い自然災害を伝承する碑

【災害名】
津波（1026年）

【建立年】
1814年

【伝承内容】
万寿3年（1026）、地震による大津波で
高津沖にあった鴨島が水没するなど
大きな被害を被った。





平成30年7月豪雨災害の碑 岡山県倉敷市

【伝承内容】

平成30年（2018）7月5日から7日に降り続いた豪雨により、小田川・末政川・高馬川・真谷川の8箇所では堤防が決壊、小田川・大武谷川の7箇所では一部損壊・損傷し、真備地区の約三割、1,200ヘクタールが浸水する大洪水となった。5,700棟超の住家が全壊・大規模半壊等し、60名を超える命が奪われた。

現在地理院地図に掲載されている中で
一番新しい自然災害を伝承する碑

【災害名】

平成30年7月豪雨
（西日本豪雨）
（2018年7月5日～7日）

【建立年】

2019年





「安政南海地震・昭和南海地震津波潮位碑」
和歌山県田辺市

繰り返される災害を伝える碑

【災害名】

安政の地震・津波

(1854年11月5日(旧暦))

昭和南海地震

(1946年12月21日)

【建立年】

1999年

【伝承内容】

安政南海地震(1854)と昭和南海地震(1946)による
津波災害を忘れないため、津波潮位を刻んでいる。

カニのはさみをモチーフしたデザインで、ハサミの先端が当時の津波潮位。



◆ 市区町村→国土地理院へ申請を行う

※地方自治体と連携し、地域の防災力向上を目指す。

①掲載希望の連絡（市区町村→国土地理院）

※事前に申請内容を相談する



②掲載申請書、申請調書を作成（市区町村）



③現地写真の準備（市区町村）

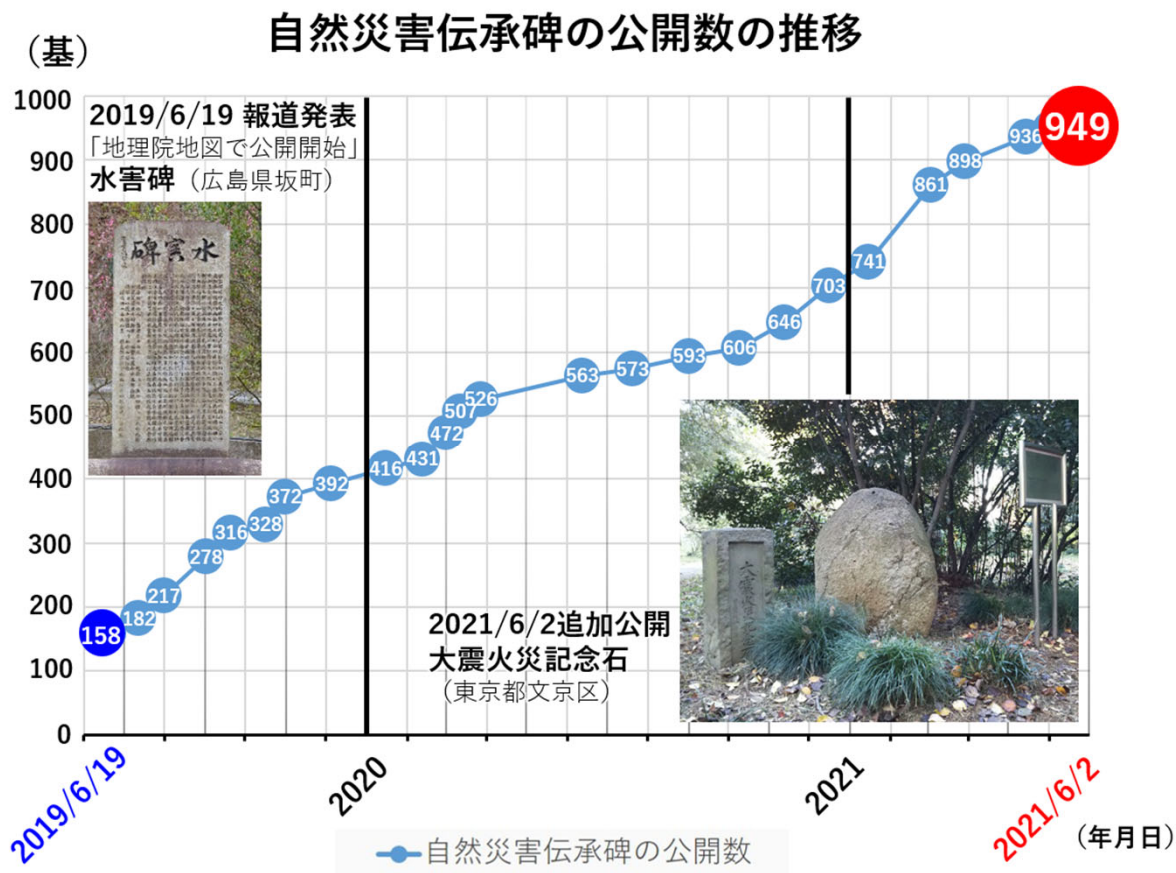


④申請書類、写真データの提出（市区町村→国土地理院）

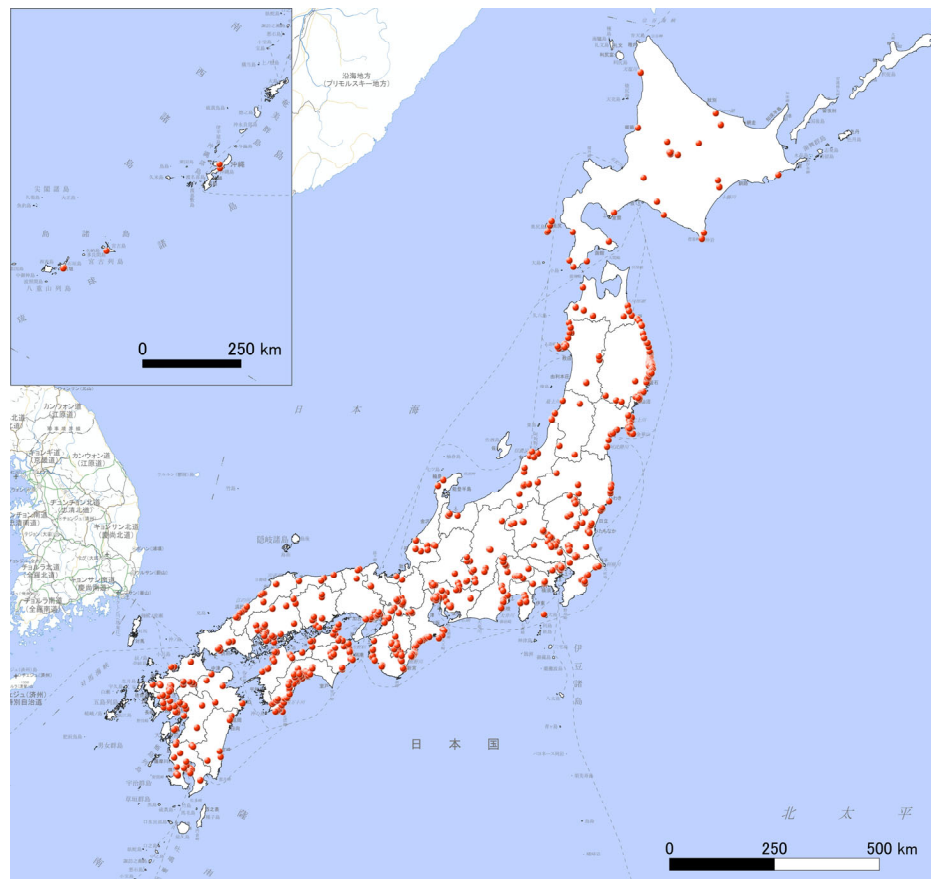


⑤申請のあった情報を取りまとめ地理院地図を更新（月1回程度）

自然災害伝承碑の公開状況（推移）



自然災害伝承碑の公開状況（分布）



公開数の多い都道府県

都道府県名	基数
岩手県	109基
高知県	80基
三重県	60基

公開数の多い市区町村

市区町村名	基数
宮古市	41基
神戸市	35基
広島市	20基

地理院地図での公開数は
47都道府県284市区町村の949基
（令和3年6月2日時点）

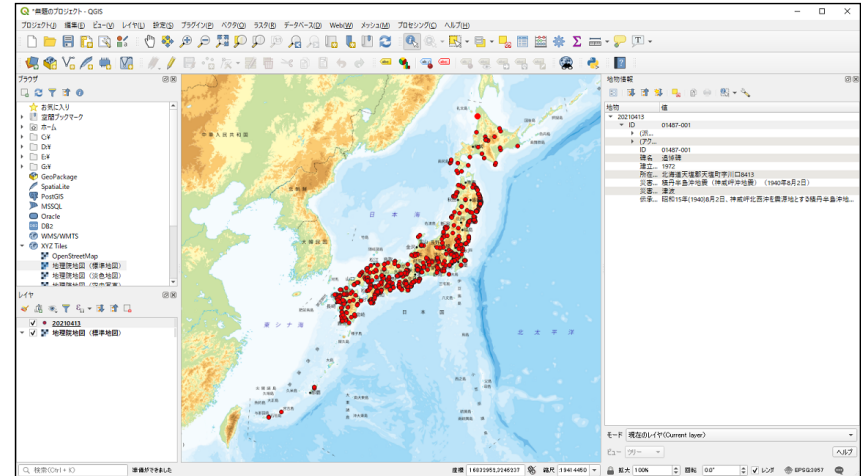
◆ 自然災害伝承碑の更なる認知度向上・活用促進を図るため、データのダウンロード提供（CSV・GeoJSON形式）を令和2年8月に開始

データに含まれる項目

- ①ID、②碑名、③建立年、④所在地、⑤災害名、⑥災害種別、⑦伝承内容、⑧自然災害伝承碑アイコンの位置座標（10進経度、緯度）



データダウンロードのページ



GISソフトでの表示例（背景地図は地理院タイル）¹⁵

自然災害伝承碑の情報は、国土地理院コンテンツ利用規約に従って誰でもご利用可能

地理院地図に掲載されている自然災害伝承碑の写真の一部は、第三者による二次利用に関して権利者への確認が必要な場合があるため、市町村別掲載情報一覧を確認の上、第三者に権利のあるものを利用する場合は、利用者の責任において確認が必要。

※地理院地図に掲載している自然災害伝承碑の写真のダウンロード提供は実施していない。

秋田県能代市で定期的に行われる地域のウォーキングイベント（能代市中央公民館事業）において、地理院地図に掲載されている自然災害伝承碑が探訪場所に設定された。参加者が自然災害伝承碑を訪れることで、過去の災害に触れ、改めて防災について考える機会となった。

[illegible]

自然災害伝承碑を訪問している様子
(写真提供：能代市)

自然災害伝承碑の活用事例 (2) 高等学校の授業

鳥取県立鳥取西高等学校では地理歴史（地理B）の授業の中で地理院地図に掲載されている自然災害伝承碑を学習教材として活用。「なぜ対象地域に自然災害伝承碑があるのか」を調べることで、対象地域の地形の特徴、土地利用の変化、過去・近年に日本及び対象地域で発生した自然災害、ハザードマップを使用した災害予測等を学び、マイ・タイムライン（住民ひとりひとりの防災行動計画）を作成することで、生徒の防災意識を高めることが授業の狙い。

なぜ
「地形を知り 災害を知り 災害に備える」
ことが大切なのか？
鳥取県立鳥取西高等学校 中村孝司
2020年11月6日

どんな地形だった？
④地形分類図で調べよう
調べ方：地理院地図
「潮死海会等」付近は、
どんな地形だった？
地理院地図
地形分類
地形分類（自然地形）
地形分類（人工地形）
この類に属し
図山情報 地形情報

「なぜ、この地に伝承碑があるのか」
ポイント
☆伝承碑は砂丘と低地の境に位置している
分田河川の直下する位置にある
の国庫は砂丘の崩壊によって埋没している
☆砂丘の崩壊により千代川は海に流出しにくい
なす川はす川川と呼ばれる区域の低い
☆河川の降水量が多ければ被害は最大
☆城下町の被害が、この地まで遡及された

③自然災害伝承碑を探そう 探し方！
この類に属し
鳥取県立鳥取西高等学校 中村孝司
なぜ、伝承碑がここにあるのか？

鳥取平野の災害危険性
⑤どんな災害が予想されているか？
調べ方：重ねるハザードマップ
「洪水」の予想浸水区域を3箇所、記入しておこう。
重ねるハザードマップ
鳥取県立鳥取西高等学校 中村孝司
鳥取平野の災害危険性

鳥取県立鳥取西高等学校 中村孝司
鳥取平野の災害危険性
鳥取県立鳥取西高等学校 中村孝司
鳥取平野の災害危険性

鳥取県立鳥取西高等学校 中村先生提供資料より抜粋

地理教育の道具箱

地図や地理、防災を学ぶ方、教育関係の方々に、国土地理院のコンテンツやツールについて紹介するページです。

子どもから大人まで
地図で学ぶ防災ポータル



入口はこちら

教育関係者は是非
地理教育支援コンテンツ



入口はこちら

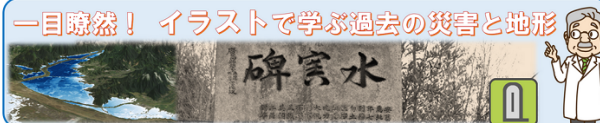
教科書出版会社や学生は是非
説明会やサマースクールのご案内



入口はこちら

目次		
地図で学ぶ防災ポータル ・災害から避ける ・災害に備える ・災害から学ぶ	地理教育支援コンテンツ ・小学校3～4年生 ・小学校5年生 ・中学生 ・高校生 ・地域の調査や探検 ・もっと地図を使う	説明会やサマースクールの案内 ・教科書・出版会社への説明会 ・学生向けの情報のご案内

一目瞭然！ イラストで学ぶ過去の災害と地形



地理教育の道具箱

「イラストで学ぶ過去の災害と地形」の入口

地理教育の道具箱

<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/index.html>

- ・ 水害が発生した際に国土地理院が作成した浸水範囲データや自然災害伝承碑の情報を用い、過去に水害が発生したと考えられる全国の85箇所の地域を抽出。それぞれの地域に関して水害と地形との関わりを説明するコンテンツを作成。5月27日に地理教育の道具箱から公開。
- ・ 他の地域を参考に身近な土地の災害危険性を知ることができるよう、地形を9区分に分類。（同じような地形は同様の被害を受けやすい）
- ・ 誰もが内容を理解しやすいよう、できるだけ専門用語を使わずに作成。

3つの
要素の
組み合
わせ

周囲の山地の様子

- 山地あり
- 山地なし

×

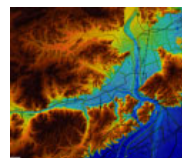
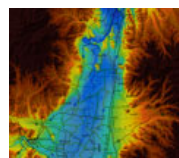
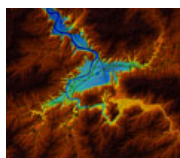
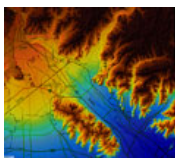
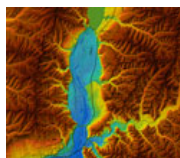
川のみちのり

- 山地の間を流れる川
- 山地から平野へ流れる川
- 平地から山地へ流れる川
- 山地から流れる天井川
- 平地から台地へ流れる川
- 平地の中を流れる川

×

川の周りの様子

- 山地に接する平地
- 山地に囲まれた平地（盆地）
- 山地に囲まれせばまる平地
- 天井川の背後に広がる平地
- 台地に接する平地
- なだらかな平地



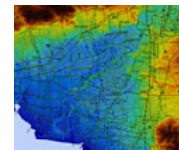
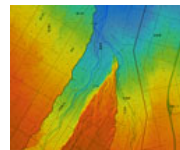
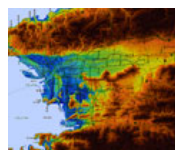
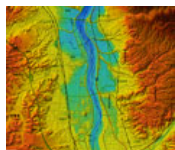
山地あり
山地の間を流れる川
山地に接する平地

山地あり
山地から平野へ流れる川
山地に接する平地

山地あり
平地から山地へ流れる川
山地に囲まれた平地（盆地）

山地あり
平地から台地へ流れる川
山地に囲まれた平地（盆地）

山地あり
平地から山地へ流れる川
山地に囲まれせばまる平地



山地あり
山地から流れる天井川
天井川の背後に広がる平地

山地あり
平地の中を流れる川
山地に接する平地

山地なし
平地の中を流れる川
台地に接する平地

山地なし
平地の中を流れる川
なだらかな平地

画像をクリック
すると同じ地形
特性の一覧へ

信濃川下流域新潟市

平地の中を流れる川

なだらかな平地



過去に特徴的な災害をもたらした要因

大正6年(1917年)10月2日からの大雨

大正6年(1917年)10月2日、連日の大雨により曾川の堤防二百メートルが決壊し、鳥屋野潟周辺、一市一町五個村の亀田郷一帯を修羅場と化した。浸水家屋数千戸、収穫を目前に冠水した田畑三千余ヘクタールその被害は量り知れないものであった。

※災害の概要は自然災害伝承碑等の内容を編集

標高が低いところになだらかな平野が広がって市街地が分布しているみたいだね。

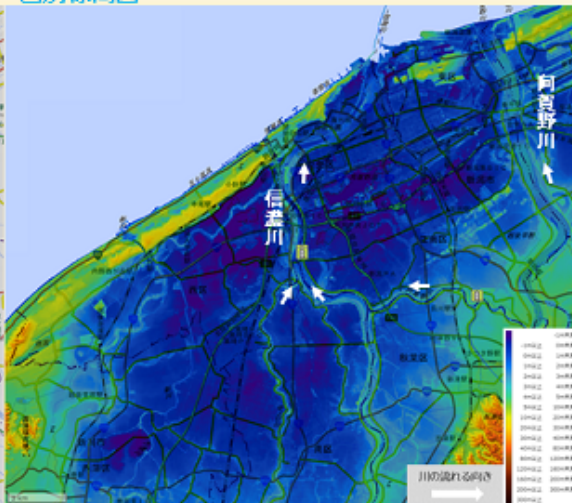
川が合流するところでは、水の流れるが悪くなって増水しやすい。川が曲がる部分は、増水時に川が堤防を傷つける力が強くなることがあるんだ。



区域図



色別標高図



過去の災害
履歴情報

1966年7月
7.17水害下越水害

1917年10月
水害曾川切れ

1913年
水害木津切れ

信濃川下流域新潟市

土地の成り立ち



過去に特徴的な災害をもたらした要因

大正6年(1917年)10月2日からの大雨

大正6年(1917年)10月2日、連日の大雨により信濃川の堤防二百メートルが決壊し、鳥屋野潟周辺、一市一町五箇村の亀田郷一帯を修羅場と化した。浸水家屋数千戸、収穫を目前に冠水した田畑三千余ヘクタールその被害は量り知れないものであった。

※災害の概要は自然災害伝承碑等の内容を編集

標高の低い平地にある市街地は大雨の時に水が溜まってしまうんだ。川が氾濫しなくても町の排水が間に合わない内水氾濫にも注意しよう。



区域図(3D表示)



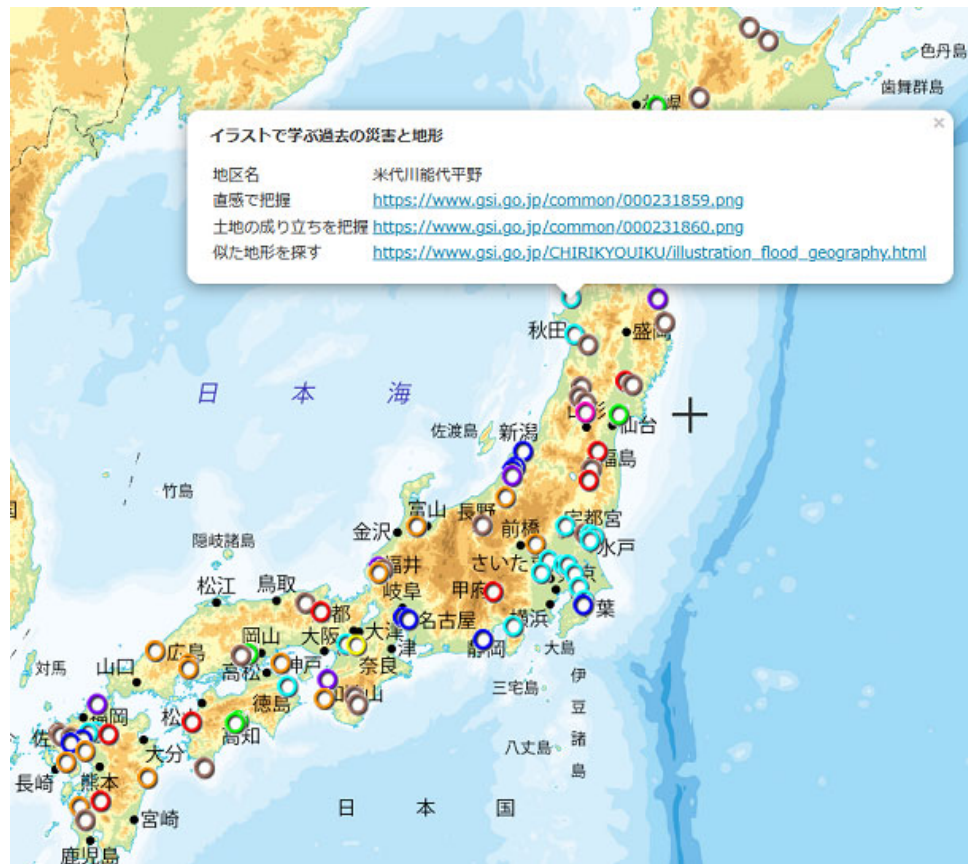
高さ30m強調

治水地形分類図(3D表示)



高さ30m強調

自然災害伝承碑の活用事例 (3) イラストで学ぶ過去の災害と地形 New!!



過去に水害が発生した85箇所の地域（地理院地図）



アイコン	周囲の山地の様子	川のみちのり	川の周りの様子	イラスト
	山地あり	山地の間を流れる川	山地に接する平地	
	山地あり	山地から平地へ流れる川	山地に接する平地	
	山地あり	平地から山地へ流れる川	山地に囲まれた平地（盆地）	
	山地あり	平地から台地へ流れる川	山地に囲まれた平地（盆地）	
	山地あり	平地から山地へ流れる川	山地に囲まれせざる平地	
	山地あり	山地から流れる天井川	天井川の背後に広がる平地	
	山地あり	平地の中を流れる川	山地に接する平地	
	山地なし	平地の中を流れる川	台地に接する平地	
	山地なし	平地の中を流れる川	なだらかな平地	

地形の9区分

国土交通省防災・減災対策本部

地震災害や水災害、火山災害など、あらゆる自然災害に対し、国土交通省として総力を挙げて防災・減災に取り組むため令和2年1月21日に設置（本部長：国土交通大臣）

～いのちをまもる～

災害教訓の伝承を通じた「防災意識社会」の構築

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

課題

東日本大震災をはじめ、我が国が経験してきた大規模災害の教訓を伝える取組が行われているものの、それらが十分認知されておらず、過去の災害が伝える教訓を防災に十分活用できていない。

対応（案）

- 東日本大震災による被災の実情と災害への備えを一体的に学べる仕組みとして東北地方の産学官の連携による「3.11伝承ロード」の構想を実現する「伝承ツーリズム」を令和2年度から本格的にスタートするとともに、全国各地の災害教訓を伝える構造物や地物、伝承館及び語りなどを活用した防災ツーリズムを全国で展開し、国民の防災力向上や地域の活性化に貢献。
- 引き続き、地図等を用いた災害教訓の“見える化”を着実に進めるとともに、これらが多くの人々に浸透するよう、デジタルサイネージ等による積極的な情報発信に努めるほか、災害をより身近に、“我が事”として捉えていただくため、防災教育素材やウォークラリー等にも活用。

第2回会議（令和2年7月6日）
において取りまとめられた
「総力戦で挑む防災・
減災プロジェクト」の施策の
うち、「災害教訓の伝承を
通じた「防災意識社会」の
構築」において、
自然災害伝承碑の情報発信、
活用について記載



- ・引き続き市区町村や関係機関と連携して
自然災害伝承碑の情報を整備、公開
- ・自然災害伝承碑の情報の活用をより一層推進
- ・自然災害伝承碑を使った防災・地理教育支援も推進

